

平成 18 年度 新設授業科目
研究マネジメント群・キャリア形成群
実施記録報告書

インターンシップ実習

キャリア形成群（博士前期課程）

インターンシップの実施に関する協定書

奈良女子大学（以下「甲」という。）と（以下「乙」という。）との間で実施するインターンシップについて以下のとおり合意したので、ここに協定を締結する。

（目的）

第1条 甲は、インターンシップを正規の教育課程として位置付け、乙との連携の下に行う学外実習をとおして、学生が大学院で修得した学問と現場での実践との融合及びその応用についての理解を深め、学習効果の向上を図ることを目的とする。

（実習生の派遣）

第2条 甲は、前条の目的を遂行するために学生を実習生として乙に派遣し、乙は、これを受け入れるものとする。

2 実習生の人数及び実習期間は、甲乙協議のうえ、決定するものとする。

（実習計画書）

第3条 乙は、甲との協議に基づき、インターンシップの実習内容等を記載した実習計画書をあらかじめ作成するものとする。

2 乙は、実習計画の作成に当たって、実習期間中における実習の総時間数が60時間を下回らないよう考慮するものとする。

（実習生に対する事前指導）

第4条 甲乙双方は、実習生に対して、インターンシップの内容及び実施方法等について事前指導を行うものとする。

（実習生の職務）

第5条 実習生は、乙の職場において、乙の指定する職員の指導を受け、その業務に従事するものとする。

（勤務時間等）

第6条 実習生の勤務時間は、原則として1日8時間以内、週40時間を越えないものとする。

2 前項の勤務は、原則として土曜日、日曜日及び祝祭日を除く日の乙の指定する時間帯とする。

（就業規則等の遵守）

第7条 実習生は、乙の定める就業規則及び服務規程を遵守しなければならない。

(就業に対する報酬)

第8条 実習生の就業に対する報酬は、無償とする。

(交通費等の負担)

第9条 実習期間中における交通費及び食費等は、実習生の負担とする。

(実習中の事故等)

第10条 実習生が実習期間中の事故により傷害を負った場合は、学生の加入する学生教育研究災害傷害保険により補填する。

(安全の確保)

第11条 乙は、実習生の就業現場における安全の確保について、責任をもって対応しなければならない。

(指導教員の訪問指導)

第12条 甲は、実習期間中に当該学生の指導教員に乙を訪問させ、訪問指導を行うことができるものとする。

2 甲は、前項の訪問指導を行う場合は、あらかじめ乙の同意を得るものとする。

(実務担当者)

第13条 甲乙双方は、インターンシップを円滑に実施するため、それぞれの実務担当者を置き、所要の体制を整えるものとする。

(守秘義務)

第14条 乙は、実習生が実習期間中に知り得る企業内情報等について守秘義務の必要を認める場合は、当該学生に誓約書を求めることができる。

2 甲は、実習期間中及び実習終了後、実習生が実習期間中に知り得た秘密を部外者に漏らさないよう指導するものとする。

(禁止事項)

第15条 乙は、実習生に対して採用の予約又は採用を目的としたインターンシップを行ってはならない。

(実施結果の報告)

第16条 乙は、実習期間終了後10日以内にインターンシップ実施報告書を作成し、甲に報告するものとする。

2 前項のインターンシップ実施報告書には、実習生から提出された実習報告書及び学外実習日誌を添付するものとする。

(成績評価)

第 17 条 甲は、インターンシップ実施報告書、実習報告書、学外実習日誌等を総合的に評価し、単位の認定に伴う成績評価を行う。

(その他)

第 18 条 本協定書に定めのない事項，又は本協定書に疑義が生じた事項については，甲乙双方が協議のうえ，決定するものとする。

2 本協定は締結の日から効力を発し、解除するときは、甲乙双方が協議のうえ、決定するものとする。

3 本協定の締結を証するため、本書2通を作成し、甲乙それぞれ1通を保管するものとする。

平成 18 年 月 日

甲 奈良市北魚屋西町
奈良女子大学大学院人間文化研究科長

矢野重信

乙

インターンシップ受け入れ承諾書

平成 18 年 月 日

奈良女子大学大学院人間文化研究科長 様

所在地 _____

名 称 _____

責任者 _____ 印

貴学とのインターンシップについて、下記のとおり受け入れを承諾します。

記

受入れ実習生	学籍番号		氏 名	
	実習課題			
実習期間	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日			
受入れ部署				
指導職員	役職名		氏 名	
	T E L			
	F A X			

誓 約 書

様

において、平成 18 年度インターンシップによる就業体験実習を行うに当たり、実習中知り得た秘密については、実習中及び実習終了後においても、何人に対しても漏らさぬことをここに誓約します。

平成 年 月 日

奈良女子大学大学院人間文化研究科（ ）専攻（ ）コース 回生

印

奈良女子大学 生活環境学部教授

指導教員

印

インターンシップ評価書

受け入れ先名	
記入ご担当者名	
ご連絡先電話番号	
ご記入日	平成 年 月 日記入
学生名	

(1) ご指導頂いた学生について

ご指導頂いた学生に対して、気付かれたことを下欄にご記入ください。
たとえば、実習に取り組む姿勢、学習態度、理解度など

(2) 学生が提出した「インターンシップ報告書」について

あてはまるところに○をつけてください。

1. インターンシップ終了後1週間以内に学生から「インターンシップ報告書」が届きましたか。
 - a. 届いた
 - b. 遅れて届いた
 - c. まだ届いていない・・・学生から「インターンシップ報告書」が届いていない場合、
以下の2. 3. はご記入を省略してください。
2. 研修日誌のスケジュール（時刻・場所）、担当者名、実習内容などについて
 - a. 概ね正確に書かれている
 - b. 誤りがある→下欄に具体的にご指摘ください。

3. 感想・学んだことなどについて

- a. 適切である
- b. 不適切な点がある→下欄に具体的にご記入ください。

(3) インターンシップについて

大学院人間文化研究科では今年度からインターンシップを導入しました。進め方、協定書、時期など、インターンシップに関してご意見、アドバイスがあればご記入ください。